

第8回帯広市総合計画策定審議会 第1専門部会 議事概要

1. 日 時 平成20年7月24日(木) 17:00~21:05

2. 場 所 市役所5階フロア会議室

3. 議事概要

(1) めざすまちの姿について

【委員】

帯広市は昭和30年代に田園都市構想を導入した。みどりは精神的、文化的、また産業にとって重要性は増してきている。実際にブルゴーニュの森を見たとき、田園都市構想の重要性を実感した。この理念を継承して行く必要がある。

環境というテーマで、中核都市として町村と連携して行く必要がある。

農業については、日本の食糧自給率向上に貢献して行く必要がある。

自給率を向上させるシンクタンク的な組織を作ることで帯広市が中核都市のキャスティングボードを握る可能性がある。

【部会長】

森を育てるのは、百年の計と言われている。田園都市構想を引き継いで行く必要がある。

【委員】

自給率の話があったが、飼料、肥料が高騰し、この先営農し続けられるか不安が出始めている。また、作物によっては生産量が決められていて、多くを作れない状況にある。

【委員】

食料自給率向上を見据えた視点が必要である。

【委員】

サステナビリティという言葉が最近使われているが、非常に重要な視点である。めざすまちの姿のなかに「持続可能な」というものが必要ではないか。

例えば、「都市機能と農村機能が共生した持続可能なまち」のようなものはどうか。

【部会長】

まち育てプランにも、持続可能なという副題が付いていた。「持続可能な」という視点はめざすまちの姿に必要な視点である。

【委員】

環境と言う切り口でめざすまちの姿を考える必要がある。官民一体となって温暖化対策に取り組むと言うような柱が必要ではないか。

【委員】

中間報告にはすばらしいことが語られていたが、柱がない。めざすまちの姿にも優先順位が必要ではないか。

また、民と官の住み分けをもう少し明確にするべきだと感じている。

安心という言葉があるが、守備範囲が広いので、もう少し範囲を絞り込んだ方が良いと感じている。

【委員】

安心という言葉があるが、市民が不安の中で暮らしていると思う。市民が安心できるようなものがめざすまちの姿に必要である。

【部会長】

安全・安心というテーマは今も昔も変わらない。引き継がれて行くべきテーマである。

【委員】

ポイントを絞ると良いが、市民には様々な人がいる。めざすまちの姿は守備範囲が広くても良いのではないか。

【部会長】

市民協働という考え方が前回の総合計画から導入されたが、重要な視点であり、受け継がれるべきである。

【委員】

市民も行政の立場を理解した上で、市民参加をして行く必要がある。

(2)めざすまちの姿(分野)について

【部会長】

農業が基盤というのは、これからも変わらない重要な視点である。

【委員】

十勝経済が順調に推移して行くには、農業の振興と中小企業の育成が重要な視点である。

【委員】

記述されている文言に異議はないが、全体構成の中で軸を明確にした方が良い。
例えば、環境が重要だということなら、時代潮流とまちづくりの課題、めざすまちの姿、まちづくりの分野別の方向性の順番も環境が1番先に記述されるというような姿勢があっても良いと思う。そのほうが、最終答申を読む市民にも理解がされやすいと思う。

【部会長】

都市像の中に優先順位を意識した単語を入れたらどうか。

【部会長】

分野毎に見て行った時に、文言に異議は無いというのが総論だと思う。問題は、全体の順位をどのように体系付けるかだ。

【委員】

10年を考えると人口減少、少子高齢化、環境問題を考慮する必要があると思う。その意味では、3つともある程度記述されていると思う。

安全・安心では市民の協力を得て行く必要があるとともに、民でできることは民でという視点が欲しい。

【委員】

都市公園という記述があるが、みどりというのは、それだけで好意的なイメージを持たせることができると思う。もう少しみどりに対する記述を強くしても良いのではないか。

以上